

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/03/03

市場のリスク選好度合いがカギに

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↑	外部要因に左右されやすい 予想レンジ: 84.000 ~ 90.500 円	2 - 3
NZドル/円	↓	レンジ下抜けに注意 予想レンジ: 77.100 ~ 83.700 円	4 - 5
ランド/円	↑	リスク・オンの流れ 予想レンジ: 8.200 ~ 9.300 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



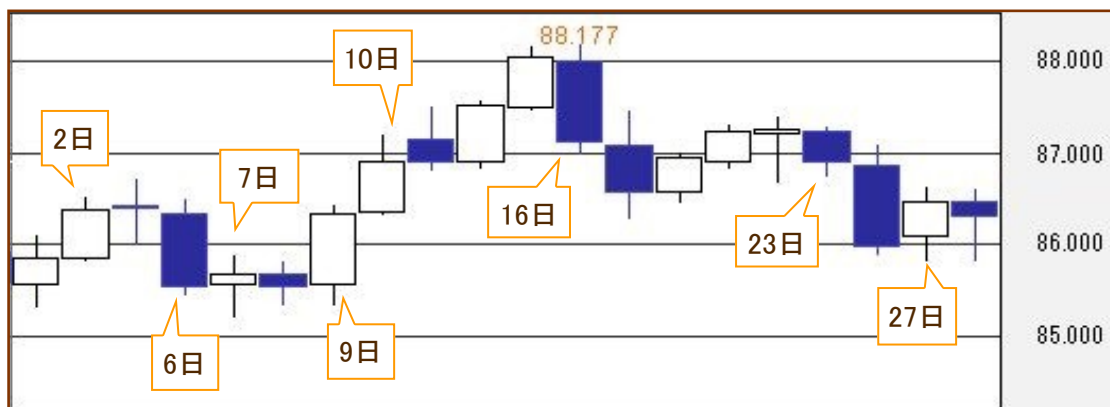
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 2月の推移

AUD/JPY

2月の豪ドル/円は、85.230～88.177円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の小幅な上昇(豪ドル高・円安)となった。前半は豪準備銀行(RBA)による将来的な利下げ観測が後退した事や、豪州の主要輸出品である鉄鉱石の価格上昇(中国の景気回復期待)などを背景に堅調推移が続き、16日には2015年12月以来となる88円台まで上値を伸ばした。しかしその後は、欧州の政治リスク(主に仏大統領選をめぐる不透明感)が意識された事などから弱含んだ。ただ、米国ではトランプ大統領の政策への期待などから株価の上昇基調が続き、市場全体のムードがリスク回避に傾く事もなかった。こうした中、豪ドル/円も底堅く推移し、月初来プラス圏を維持して取引を終えた。



四本値

OPEN	85.586
HIGH	88.177
LOW	85.230
CLOSE	86.314

2日	豪12月貿易収支は35.11億豪ドルの黒字と予想(20.00億豪ドルの黒字)を上回った。また、豪12月住宅建設許可は前月比-1.2%と予想(-1.5%)ほどには減少しなかった。これらを受けて豪ドル買いが優勢となった。
6日	豪12月小売売上高は前月比-0.1%と予想(+0.3%)に反して減少。その後の欧米市場では仏大統領選の不透明感が広がり(有力候補であるフィヨン氏に政治スキャンダルが浮上した事が反ユーロを掲げるルペン候補に有利に働くとの観測)、株安が進行する中、豪ドル売り・円買いが活発化した。
7日	豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置き(1.50%)を発表。声明で「コモディティ価格の上昇は、交易条件の改善を支援」「CPI、2017年に上向き2%超に」「中心的シナリオは依然として3%前後の経済成長」などと前向きな見方を示すと豪ドル買いが強まった。なお、中国で発表された1月外貨準備高は2兆9982億ドルと、2011年2月以来の3兆ドル割れとなった。
9日	豪準備銀行(RBA)のロウ総裁が「合理的な成長見通しを考慮すると、豪ドルが高過ぎるとは言い難い」などと発言すると豪ドル買いが活発化。さらには、トランプ米大統領が「2-3週間以内に驚異的な税制について発表する」と述べた事を受けてNYダウ平均が一時20200ドル台に上伸する中、豪ドル買いが活発化した。
10日	RBAが四半期金融政策報告を発表。17年6月期の経済成長見通しを1.5-2.5%(昨年11月時点2.5-3.5%)に引き下げた。また、世界景気見通しの改善を強調する一方で、成長による雇用への恩恵は軽微だとして、雇用の伸びは限定的にとどまるとの見通しを示した。その後、中国1月貿易収支が513.5億ドルの黒字(予想:485.0億ドルの黒字)と発表された。内訳では、ドル建ての輸入が前年比+16.7%、輸出は同+7.9%といずれも予想(+10.0%、+3.2%)を上回った。
16日	豪1月雇用統計は、失業率が5.7%、就業者数は1.35万人増(予想:5.8%、1.00万人増)という好結果であった。ただ、労働参加率が64.6%と予想(64.7%)を下回った事や、就業者数の内訳で正規雇用が4.48万人減少(非正規雇用が5.83万人増)していた事から、豪ドル高には繋がらなかった。
23日	豪10-12月期民間設備投資が前期比-2.1%と予想(-0.5%)を下回った事を受けて豪州景気回復期待が萎み、豪ドル売りが強まった。
27日	トランプ大統領が「インフラに大きく支出するつもり」と述べた事を受けて米国株の堅調推移が続き、NYダウ平均が12連騰で史上最高値を更新する中、豪ドル買い・円売りが優勢となった。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	18926.97
HIGH	19519.44
LOW	18805.32
CLOSE	19118.99

NYダウ平均

OPEN	19923.81
HIGH	20851.33
LOW	19831.09
CLOSE	20812.24

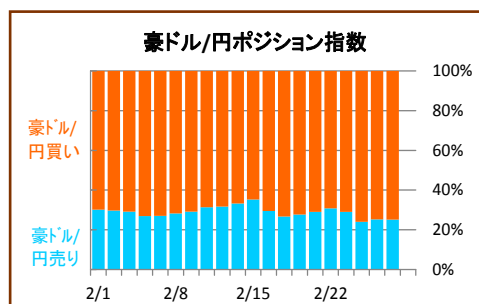
上海総合指数

OPEN	3160.082
HIGH	3264.082
LOW	3132.033
CLOSE	3241.733

豪10年債利回

OPEN	2.716%
HIGH	2.840%
LOW	2.632%
CLOSE	2.722%

2月のポジション動向



3月の豪州・中国の注目材料

- ・10-12月期豪GDP(1日)
- ・3月中国財新製造業PMI(1日)
- ・1月豪貿易収支(2日)
- ・1月豪小売売上高(6日)
- ・RBA政策金利発表(7日)
- ・2月中国外貨準備高(7日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・2月中国消費者物価指数(9日)
- ・2月中国小売売上高(14日)
- ・2月中国鉱工業生産(14日)
- ・2月豪雇用統計(16日)
- ・G20財務相・中銀総裁会議(17-18日)
- ・RBA議事録(21日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

3月の見通し

豪中銀(RBA)の金融政策は当分の間変更なしの見込みだ。ロウRBA総裁も2月24日の議会証言で「市場における年内金利据え置きとの織り込みは妥当と思われる」と述べており、当面は中立スタンスを維持する考えを示唆した。一方で、昨年9月に行った金融緩和の枠組み変更によって、日銀の金融政策変更への期待も大きく低下している。豪ドル/円にとって両國中銀の金融政策が材料になりにくい相場環境と言え、7日のRBA理事会や16日の日銀金融政策決定会合は注目度・重要度ともに落ちる事になる。こうした中、3月の豪ドル/円相場は外部環境に左右される見通しであり、中国の動向(5日に全国人民代表大会が開幕)をはじめ、トランプ米大統領の経済政策(中旬に予算教書演説の予定)や欧州の選挙(15日にオランダ下院選挙)などがカギを握る事になるだろう。世界的に景気が上昇基調であり、インフレも回復基調にある事を考えると、これらを無難に消化すれば豪ドル/円に上昇圧力がかけやすくなりそうだ。(神田)

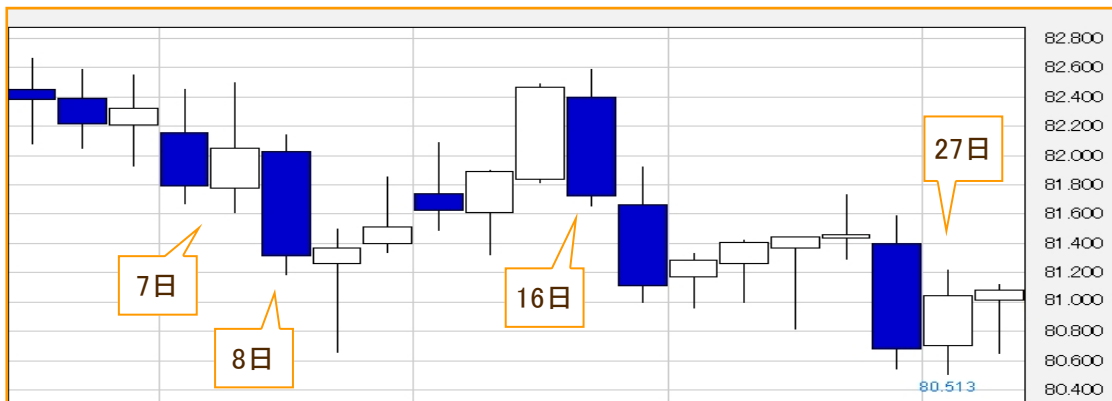
(予想レンジ: 84.000-90.500円)

NZドル/円 2月の推移

NZD / JPY

2月のNZドル/円相場は80.513～82.663円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の下落(NZドル安・円高)となった。

8日のNZ準備銀行(RBNZ)声明がハト派的であった上、ウィーラー総裁がNZドル安誘導発言を行った事から、NZドル/円は81円を割り込んで下落。その後やや値を戻すも一時的となり、27日に80.513円まで再び下落。もっとも値幅はわずか2円程と、2014年8月以来となる小動きであった。市場の関心が米早期利上げ期待に集まり、NZドルへの関心が薄かったためと考えられる。



四本値

OPEN	82.456
HIGH	82.663
LOW	80.513
CLOSE	81.086

7日	NZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁が今年9月26日の任期終了後に退任する意向を示すと、NZドル/円は81.611円までやや下落(退任後、後任が決まるまでの間はスペンサー副総裁が総裁代行を務める)。しかし、RBNZの四半期調査でのインフレ見通し(2年間)が1.92%と前回(1.68%)を上回り、2015年10-12月期(1.94%)以来の伸びとなったこと受け、82.499円まで反発した。
8日	NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の据え置き(1.75%)を決定。声明で「金融政策はかなりの期間緩和的であり続けるだろう」「NZドルの下落が必要」などと伝わりNZドル売りが強まった。なお、ウィーラーRBNZ総裁は「緩和的なバイアスを取り除いた」「利上げや利下げのリスクは概ね均衡している」「政策金利は低水準にとどまる見通し」などと発言している。
16日	日経平均やNYダウ平均の軟調推移が重石となり、NZドル/円は81.60円台まで下落した。なお、NZ2月企業景況感が51.6と前月(54.5→54.2)を下回り、NZ10-12月期小売売上高も前期比+0.6%と予想(+1.0%)を下回ったが、いずれもNZドル売りの動きは限定的であった。
27日	仏大統領選の世論調査で、極右のルペン氏の支持率が低下してリスク回避ムードが和らいだ。米早期利上げ期待を背景にドル/円が急騰したことも追い風となり、NZドル/円は81.224円まで上値を伸ばした。なお、NZ1月貿易収支は2.85億NZドルの赤字と予想(0.25億NZドルの赤字)より弱い結果となったが、反応は限定的であった。

NZD/JPY

日 経 平 均

OPEN	18926.97
HIGH	19519.44
LOW	18805.32
CLOSE	19118.99

NYダウ平均

OPEN	19923.81
HIGH	20851.33
LOW	19831.09
CLOSE	20812.24

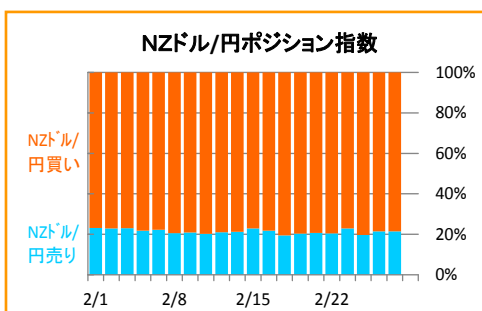
上海総合指数

OPEN	3160.082
HIGH	3264.082
LOW	3132.033
CLOSE	3241.733

NZ10年債利回

OPEN	3.358%
HIGH	3.390%
LOW	3.156%
CLOSE	3.232%

2月のポジション動向



3月のNZの注目材料

- ・1月NZ住宅建設許可(6日)
- ・2月NZ貿易収支(24日)
- ・NZフォンテラ入札(7日、21日)
- ・2月NZ住宅建設許可(31日)
- ・10-12月期NZGDP(16日)
- ・2月NZ企業景況感(PMI、17日)
- ・G20財務相・中銀総裁会議(17-18日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(22日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

3月の見通し

NZドル/円は、2016年12月26日安値(80.448円)を底、17年1月27日高値(83.791円)を天井とするレンジを形成しているが、2月はレンジ下限を試す場面が見られた。3日の執筆時点で80.50円前後に下落しており、目先はレンジ下抜けが意識されやすいと見る。もし割り込むようならば、昨年6月安値～今年1月の上昇幅に対する調整が入る可能性が高まる。その場合の下値目処として、16年6月安値(69.006円)～17年1月高値(83.791円)の上げ幅1/3押し(78.863円)や週足の一目均衡表の基準線(執筆時78.225円)、前述のレンジ倍返し(77.129円)などが挙げられる。

今年1月に発表されたNZ10-12月期消費者物価指数は約2年ぶりにRBNZのインフレ目標レンジ下限(1%)を突破するなど、世界的なインフレの流れが波及している。今月のRBNZオフィシャル・キャッシュレートは金利据え置き(1.75%)予想がコンセンサスとなっており、市場の関心は声明のほうに集まると見る。2月時点と比べハト派色が薄れるか、NZドル相場の水準に言及があるかが、ポイントとなるだろう。また、金融政策発表の前週に予定されているNZ10-12月期国内総生産(GDP)にも注目したい。(川畑)

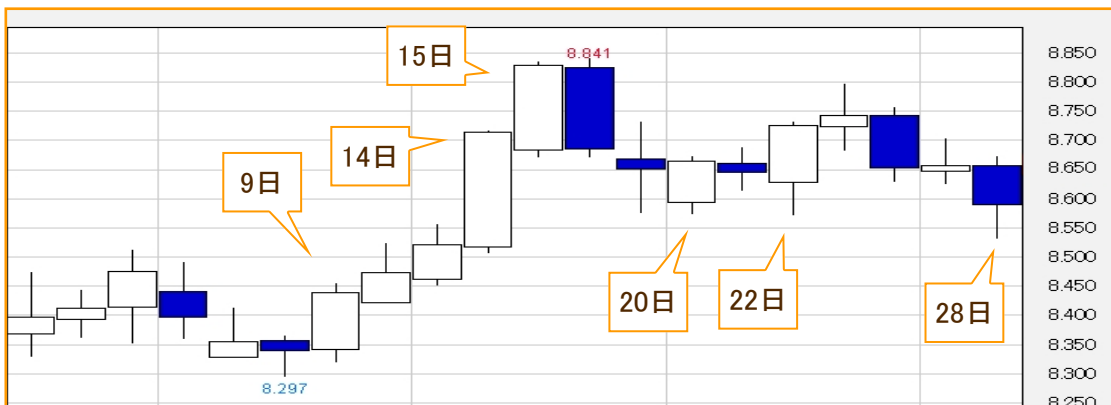
(予想レンジ: 77.100～83.700円)

ZAR/JPY

ランド/円 2月の推移

2月のランド/円相場は8.297~8.841円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.7%の上昇(ランド高・円安)となった。

トランプ米大統領の減税や大規模なインフラ投資への期待を背景にNYダウ平均が連日史上最高値を更新する中、リスク・オンの中でランド/円は堅調に推移すると、16日に2015年10月以来の高値となる8.841円まで上昇した。その後も米株高は続いたが、ランド/円は伸び悩んだ。背景には、今年12月の南ア与党アフリカ民族会議(ANC)総裁選を前にした政局不安がありそうだ。



四本値

OPEN	8.370
HIGH	8.841
LOW	8.297
CLOSE	8.591

9日	トランプ米大統領の「向こう2、3週間に税および航空インフラ開発に関して、目を見張るような発表を行う」との発言を受けてNYダウ平均が上昇すると、ランド/円は連れて値を上げた。
14日	イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が3月利上げの可能性を排除しなかったことを受け、ドル/円が急騰。NYダウ平均が史上初となる20500ドル台に乗せた事もあり、ランド/円も連れて値を上げた。なお、南ア10-12月期失業率が26.5%と、7-9月期(27.1%)から改善した。
15日	1月南ア消費者物価指数が前年比+6.6%と予想(+6.7%)を下回り、12月(+6.8%)から低下した。冴えない景気の下で南ア準備銀行が利上げを行う可能性が後退した事などから、ランド/円は8.80円目前まで上昇。その後は「南アの反トラスト当局が外為取引を巡り銀行の訴追を検討」との報道を嫌気してランドが売られるも一時的であった。
20日	与党ANCの臨時会議でゴードン財務相の進退が話し合われる可能性が嫌気され、一時8.575円まで売られた
22日	南ア財務省は成長見通しを発表。同国の経済成長率について、17年が1.3%、18年は2.0%、19年は2.2%との見方を示した。
28日	南ア1月貿易収支は予想(34億ランドの赤字)より弱い108億ランドの赤字であった。

日 経 平 均

OPEN	18926.97
HIGH	19519.44
LOW	18805.32
CLOSE	19118.99

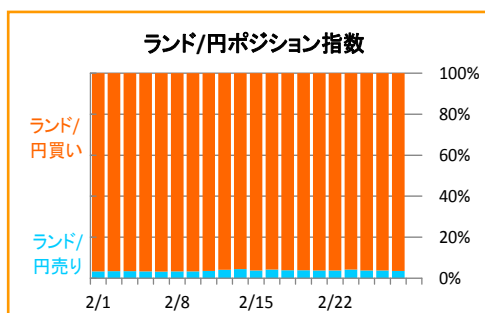
NYダウ平均

OPEN	19923.81
HIGH	20851.33
LOW	19831.09
CLOSE	20812.24

N Y 金

OPEN	1212.20
HIGH	1264.90
LOW	1199.70
CLOSE	1253.90

2月のポジション動向



3月の南アフリカの注目材料

- ・10-12月期南アGDP(7日)
- ・1月南ア小売売上高(15日)
- ・G20財務相・中銀総裁会議(17-18日)
- ・10-12月期南ア経常収支(22日)
- ・2月南ア消費者物価指数(22日)
- ・2月南ア生産者物価指数(30日)
- ・SARB政策金利発表(30日)
- ・2月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

3月の見通し

ランド/相場は昨年末から概ね8.30-60円台でレンジを形成していたが、2月に8.80円台まで上昇してレンジを上抜けた。こうした中、今月もリスク・オンの流れが続くか、NYダウ平均を始めとする株価の動向に注目したい。足元の米株高はトランプノミクスへの期待の表れであり、株高が継続すればランド/円に追い風となる可能性がある。ただ、2月のNYダウ平均はほぼ1本調子で21000ドルの大台を突破しており、高値警戒感が根強い。トランプノミクス後退懸念や保護貿易色の強い政策発表などは、株価の調整入りのきっかけとなりうるので注意したい。

今年に入り、12月の南ア与党アフリカ民族会議(ANC)の総選挙を前に、同国政局が神経質になっている点は抑えておきたい。今年に入り主なものでも、ズマ大統領が支持に従わなかった大臣らの罷免を検討(1/27)、ズマ大統領の年次演説前に野党議員が妨害して乱闘(2/9)、ゴードン財務相の更迭観測(2/20)などが起きている。ゴードン財務相は市場からの信任も厚く、もし交替となった場合はランド売り要因となりえる。また、政局不安が同国の格付けに影響を及ぼすことがあれば、こちらもランド相場の重石となる事が予想されるので注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 8.200~9.300円)